

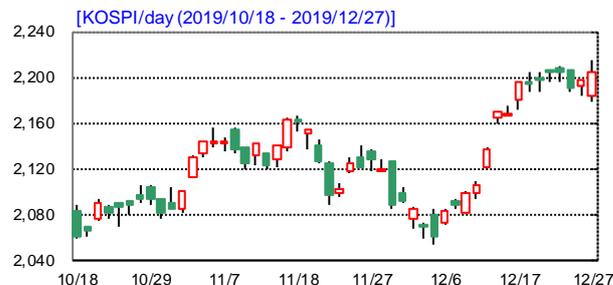


【韓国】 総合指数は週間でほぼ横ばい、今週は正月連休を挟んで薄商いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.001%高とほぼ横ばいも3週続伸となった。25日が休場となり4日間の取引。2200ポイント付近でのみ合いが続いたが、27日に終値ベースで5月2日以来およそ8カ月ぶりの高値をつけた。市場参加者が減る中、ハイテク株を中心に持ち高整理の売りが強まった一方、米中貿易協議における「第1段階の合意」文書への早期署名期待などが投資家心理を支えた。今週は12月31日と1月1日が休場。引き続き薄商いの中で方向感に欠く展開か。国内では11月鉱工業生産、韓国銀行（中央銀行）の政策金利、12月製造業購買担当者景気指数（PMI）などが発表される予定。なお、地政学リスクが意識される北朝鮮情勢を巡っては28日に召集された朝鮮労働党の中央委員会総会の内容などが注目される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は1.7%高と4週続伸、今週は30日だけで持ち高整理優勢か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.7%高と4週続伸。米中通商協議の進展期待や原油高・ルーブル高が投資家心理の改善につながった。中国が冷凍豚肉など幅広い輸入品の関税の引き下げを発表したことで米中通商協議の進展への期待が続き、週初から買い優勢。その後も米中双方が「第1段階」の合意文書への署名が近いと発表したことや良好な中国経済指標、原油高・ルーブル高の継続も安心感につながった。指数は25日まで4日続伸。27日は0.9%上昇し、終値で1549.40ドルと6年10カ月ぶりの戻り高値を更新した。個別銘柄では、資源・エネルギーのスルグトネフテガス、ポリウス、金融のズベルバンクなどの上昇が指数を押し上げた。今週の取引は30日のみ。31日から1月8日まで長期休場で、持ち高整理が優勢か。

▼指数チャート



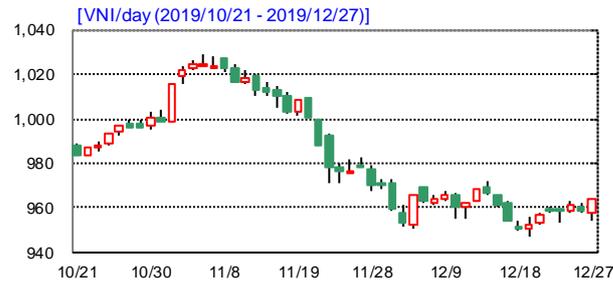
【ベトナム】 ベトナム指数は0.7%高と反発、今週は米中通商協議の進展期待で堅

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%高と反発。米中通商協議の進展を受けて世界的にリスク選好の流れが強まる中、ベトナム GDP の上振れが相場の支援となった。米中双方が「第1段階」の通商合意文書への署名が近いとの見方を示し、世界的にリスク選好が強まった。ベトナムの2019年GDP成長率が7.02%と政府目標の6.8%を上回ったことも好感された。指数は週初からもみ合う展開となったが、27日に0.5%上昇し、終値で963.51ポイントと2週間ぶりの高値水準を回復した。個別銘柄では、ベトナム投資開発銀行（8.1%高）、ノー・バー・ランド・インベストメント（3.9%高）、ベトコムバンク（2.5%高）などの金融株の上昇が指数を押し上げた。今週も米中通商協議の進展期待を背景に世界的リスクオンの流れが相場の支援となるか。

▼指数チャート



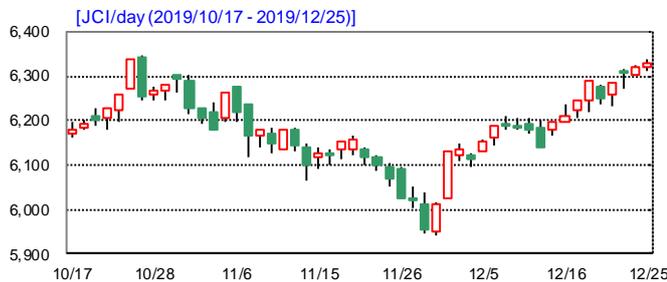


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%高、米中協議進展で2カ月ぶりの高値更新

ジャカルタ総合指数は3日間の取引で0.7%高と4週続伸。週初に終値で6300ポイントに乗せると、その後も週末まで4営業日続伸と堅調に推移した。23日は、前週末の米中首脳による電話協議の内容が好感されて指数は続伸。連休を挟んだ26日は、トランプ米大統領が24日に「第1段階」の合意について、迅速に署名する意向を示した効果で買われると、27日は好地合いが続く中、終値で約2カ月ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は2日に12月のCPIが発表される予定。外部要因では、中国の12月の公式の製造業PMIと財新製造業PMIが焦点になりそうだ。31日は大みそか、1日は元日のため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、今週は2日に10-12月期のGDP速報値発表

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で0.4%高と反発。薄商いの中、小幅なレンジで週末まで5営業日続伸した。23日は前週末のNYダウが過去最高額を更新した流れで買われると、半日立ち合いとなった24日は、通信株と工業関連株が指数上昇をけん引。祝日を挟んだ26日は11月の鉱工業生産が前年同月比9.3%減と市場予想を大幅に下回ったものの、米中協議の進展が好感されて買われた。27日には終値で約5週間ぶりの高値を更新している。今週は2日に10-12月期のGDP速報値、3日に12月の製造業PMIが発表される予定。31日は大みそかのため半日立ち合い、1日は元日の祝日で休場となる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 0.3%高、中央銀行総裁が追加利下げの可能性を示唆

SET指数は週間で0.3%高と反発。おおむね堅調な値動きだった。週初めの23日は、11月の貿易収支(通関ベース)が市場予想から上振れした上、中央銀行総裁が追加利下げの可能性を示唆した効果で指数は小幅に反発。24日は前日に中銀総裁が経済成長の鈍化に懸念を示した影響で売られたが、25日は11月の鉱工業生産が前年同月比8.3%減と7カ月連続で前年割れしたものの影響は軽微で買い戻された。26日は指数ウェートの大きいタイ空港公社とタイ石油公社(PTT)が指数上昇をけん引したが、27日は反落している。今週は2日に12月のCPIが発表される予定。31日は大みそか、1日は元日のため休場となる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.03%高、今週は3日に11月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.03%高と横ばい。週末の上昇が指数を支えた。週初めの23日は、ペトロナスからタイへの液化天然ガスの新供給計画が中止となった影響で、ペトロナス・ガスを含む傘下の2社が下落したものの、マレーシア・エアポートなどが買われ指数は続伸。一方、24日に利益確定売りで反落すると、祝日を挟んだ26日も小幅に続落した。27日には場中に一時、1600ポイントを割り込んだが、パーム油価格の高止まりを受けて引け際にプランテーション株が買われ、終値ではこの水準を回復している。今週は3日に11月の貿易統計が発表される予定。1日は元日で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。